園だより きづき

令和６年１月号
キッドワールドサード保育園
園 長　　遠 藤　　靖 子

あけましておめでとうございます

２０２４年が始まりました。新しい年を迎えると「何かを始めよう。」「今年こそは・・・」と気持ちも新たに目標を立てたくなります。皆さん、今年はどんな目標を立てますか？

サード保育園の目標は、「笑顔で過ごす」です。子どもたちだけでなく、サード保育園に関わる全ての方が毎日を「笑顔」で過ごせますように、この言葉にねがいを込めたいと思います。１日１回は思いきり「笑う」ことができますよう、それも子どものことで笑えるように日々頑張ってまいります。どうぞ皆様、今年もよろしくお願いいたします。

今月の行事

１０日(水)　身体計測
１１日(木)　鏡開き
１８日(木)　健康診断
３１日(水)　お弁当日

今月のお弁当日は・・・
31日(水)です。
お弁当と食具を持たせてください。

※最近、お弁当袋に記名がない物があります。間違いを防ぐためにも、必ず記名をしてください。

「１日保育士体験」を再開します

新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの流行に伴い、受け入れをストップしていた「１日保育士体験」ですが、１月より再開したいと思います。保育士の仕事を通して、お子さんの園での様子を見に来ませんか？

詳しくは後日プリントを配付いたしますので、ご確認ください。

お手紙が届きました

４月いっぱいで県外へ引っ越した２歳児の「さわ　はるか」さんから、みんなにお手紙が届きました。新しい所で元気いっぱいで頑張っているようです。サード保育園にいたころの写真をよく見ているとの事です。大分に来た時は、みんなに顔を見せてね、とお返事を出そうと思います。もし、はるかさんにお手紙を出したい方がいらっしゃいましたら、一緒に送りますのでお知らせください。

子育てコラム

子どもの脳の発達と子ども心の発達

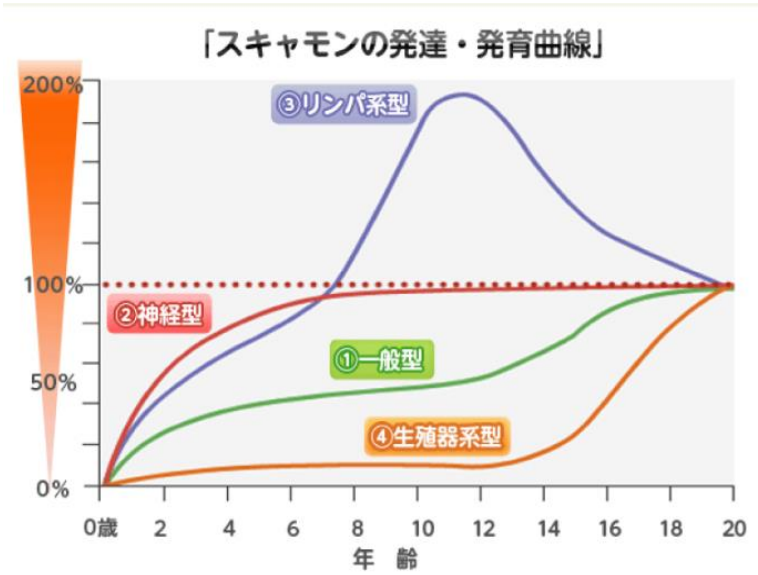
キッドワールド総合園長　　牧野桂一

乳幼児の育ちに関する情報の中に、子育てと「脳の発達」関するものが大変多く見られるようになりました。保護者の皆さんとの立ち話の中でも、子どものしつけや行動を取り上げてそれは脳の発達とどのような関係があるのかと言うことなどを問われることが多くなったのです。これまでの経験的な子育てに対して、脳科学的な考え方を加えて理解するということが求められているのではないかと思います。

脳に関する科学的な情報によりますと、私たち大人の脳の重さは約 1,200g から 1,500g くらいあるといいますが、オギャーと生まれた赤ちゃんの脳は、大体 350g から 400g くらいで、それから 2 年経って 2 歳になりますと 2 倍近い 700ｇくらいになり 3 歳までには大人の約 90%以上になるというのです。さらに 5 歳になると 1,300ｇ近くになり、6 歳までには成人の脳の重さの約 95%にもなり、12 歳頃にはほとんど 100%まで達するというのですから、驚きです。

この脳の発達の姿を分かり易く教えてくれるのが右図の「スキャモンの発達・発育曲線」といわれるものです。この図での「神経型」というのが脳の発達のことを表しています。

この図を見てみると、脳の育ちにとって乳幼児期がいかに大切かということがよく分かります。この機会に、0～6 才ごろまでの脳の発達の特徴と周りの大人の関わり方について具体的に考えながら乳幼児期の重要性を考えてみたいと思います。



（1）生後すぐから 6 カ月ころまで

生後すぐから 6 カ月ころまでは、脳の中でも特に「見る、聞く、ぬくもりを感じる」などの「原始的な感覚領域」が育つといわれています。したがって親子の触れ合い、人間同士の触れ合いで感覚領域を刺激することが、脳を育てる土台づくりになるのです。

（２）生後６カ月から２歳ごろ

生後６カ月から２歳ごろは、母国語、日本人であれば日本語の獲得、つまり言葉にかかわる領域が発達します。周りの大人にやさしく語りかけられ、抱っこされ、おむつを変えてもらい、たっぷりの愛情を注がれることで子どもは周りの大人に深い信頼感を抱きます。このような親子の愛着形成は非常に重要で脳が育つ基盤をつくります。

（３）２歳から４歳ころ

２歳から４歳ころには、知的好奇心が発達します。「なぜなぜ期」といわれるように、子どもの興味・関心が外の世界に広がり始め、自分と他者の区別ができてくるため、「なんでこうなるんだろう」といろんなことを知りたがるので、この知的好奇心を伸ばすために、図鑑や絵本などの知識と現実の体験とを結びつけてあげることが大切になります。

（４）３歳から５歳ころ

３歳から５歳ころには、運動領域がめざましく発達します。歩く、走る、跳ぶなどの運動や、はさみを使う、楽器を演奏するなど指先の繊細な動きもできるようになってくる時期です。この時期には、有酸素運動（筋肉を収縮させる際のエネルギーに酸素を使う運動）を行うと、記憶にかかわる海馬（かいば）という部分の成長が促進され、記憶力をアップさせるので、外遊びなどでたくさん体を動かすことが大切です。

もう一つ脳の発達には臨界期（ある能力を獲得するためには期限があること）があるという大切なことがあります。まさに脳の発達は、乳幼児期の今が人生の中で最も大切で「後で・・・・」ということはできないということなのです。

脳の発達という面からもこの乳幼児期をしっかりと受け止めて子どもたちと関わっていきたいものです。

「脳の発達」と言われると、何だか難しく考えてしまいそうです。しかし、今回のコラムを読むと、大人が子どもにそそぐ愛情が一番だと言うことがわかります。子どもの体に触れながら語りかけ、たくさん抱きしめてあげる。サード保育園に通園している年齢の子どもたちは、それにより心が安定し、親子の愛着形成がなされ、脳のより良い発達へと繋がるのだと思います。子どもが許してくれる限り、たくさん抱っこしましょうね。